

第 104 回大腸癌研究会
ステージⅡ大腸癌のハイリスク因子に関する研究
第 7 回プロジェクトミーティング 議事録

【日時】 2026 年 1 月 22 日（木） 15 時 00 分～15 時 30 分

【開催会場】 浜松町コンベンションホール 5F メインホール A

<出席者（敬称略）>

秋田聡（愛媛大学）、阿部浩幸（東京大学）、石田文生（昭和大学横浜市北部病院）、伊勢一郎（東北大学）、岩本一亜（済生会加須病院）、植村守（大阪大学）、大塚泰弘（防衛医科大学）、大平学（千葉大学）、岡村亮輔（京都大学）、小野智之（東北大学）、門松雄一郎（順天堂大学）、菊家健太（防衛医大）、清松知充（国立国際医療研究センター病院）、高村卓志（国際医療福祉大学熱海病院）、後藤健太郎（京都大学）、小林宏寿（帝京大学医学部附属溝口病院）、菰淵瑛美（昭和医科大学横浜市北部病院）、佐々木和人（東京大学）、佐々木慎（日本赤十字社医療センター）、佐藤雄（東邦大学医療センター佐倉病院）、佐村博範（浦添総合病院）、杉下哲夫（東京科学大学）、杉本渉（オンコリスバイオファーマ）、鈴木千佳（アムジェン）、須藤亜希子（弘前大学）、須藤剛（山形県立中央病院）、諏訪雄亮（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、高島順平（帝京大学医学部附属溝口病院）、高津史明（四国がんセンター）、高見澤康之（国立がん研究センター中央病院、金光先生代理）、瀧山亜希（山王病院）、瀧山博年（QST 病院）、谷公孝（東京女子医科大学）、谷口文崇（広島市民病院）、十朱美幸（順天堂大学）、富樫一智（福島県立医科大学会津医療センター）、中山沢（アムジェン）、夏目壮一郎（埼玉県立がんセンター）、南原翔（九州大学）、能浦真吾（堺市立総合医療センター）、長谷川沙織（大鵬薬品工業株式会社）、波多豪（大阪大学）、久野晃路（北野病院）、肥田侯矢（京都大学）、平木将之（関西ろうさい病院）、深瀬正彦（山形県立中央病院）、藤井能嗣（埼玉医科大学国際医療センター）、藤田宗新（大阪国際がんセンター）、古屋信二（山梨大学）、星野伸晃（京都大学）、真崎純一（東京医科大学）、松本智博（日本ベーリンガー）、水内祐介（九州大学）、三口真司（県立広島病院）、宮倉安幸（栃木県立がんセンター）、三宅 亨（滋賀医科大学）、望月秀太郎（山形県立中央病院）、八尾隆史（順天堂大学）、安井昌義（関西ろうさい病院）、矢野琢也（広島大学）、山内慎一（東京科学大学）、山口茂樹（東京女子医科大学）、山口瑞生（広島大学）、山崎健太郎（静岡がんセンター）、山城直嗣（浦添総合病院）、山梨高広（北里大学）、山本聖一郎（東海大学）、横井圭悟（北里大学）、吉永繁高（多摩総合医療センター）、劉洋（京都大学）

秋吉高志（研究代表者：がん研有明病院）、上野秀樹（防衛医科大学）、梶原由規（防衛医科大学）、野口竜剛（研究事務局：がん研有明病院）

<議事>

・秋吉よりこの半年の進捗状況について実際の各ご施設の登録状況とあわせて共有した。

当初は登録開始が遅いご施設もあり 2024 年は症例登録が伸び悩み 323 例の登録でしたが、2025 年には

834 例の登録と 1000 例/年の目標にかなり近い登録ができ、2025 年 12 月 26 日現在で 1157 件の登録数を達成できました。深く御礼申し上げます。

症例登録数 20 番目のご施設が 30 例前後の登録数ですので、今からご登録開始いただいても上位の登録数となることできると思いますので、是非登録をお願いします。

・診断再現性についての副次研究（大腸癌における新しい病理学的予後因子の診断再現性に関する多施設共同研究）の進捗について秋吉より報告を行った。

2025 年 6 月 3 日 大腸癌研究会 IRB 承認→防衛医大の IRB 変更申請が 7 月に承認いただきました。

その後、各施設での実施許可申請取得のお願いをさせていただき、実施許可を取得された旨の連絡を順次いただいております。自院のデータを使用するわけではありませんので、実施許可が不要な施設もあります。

都立駒込病院、栃木県立がんセンター、東京女子医科大学、帝京大学医学部附属溝口病院、兵庫医科大学病院から実施許可取得の連絡をまだいただいております。

・診断再現性についての副次研究の今後の流れについて梶原先生より説明を行った。

現在前向きに判定いただいている簇出、低分化胞巣、最低分化度、DR 分類の病理医間での診断一致度を見ることを目的としております。協力を表明いただいた病理医の先生方にご参加いただき、50 例分のデジタルスライドを防衛医大で準備しましたので、こちらを評価いただき、日常診療に導入可能かの判断材料としたいと考えております。

USB にデータを格納したものをレターパックで郵送させていただきます。

USB 内の一番上のフォルダ内に 50 症例分のデジタルスライドが入っております。デジタルスライド参照には浜松ホトニクス Nano Zoomer を使用いただければ見いただけます。

お持ちでない場合には無償でダウンロードいただけるソフト NDP.view2 のファイルがネット上からも入手可能ですが、入手困難であればご連絡いただけましたらメールに添付してご案内させていただきます。

簇出、低分化胞巣などを評価いただく際に、円を描いて評価いただくこととなりますが、これらのソフトを使用する際にアノテーションにより半径 500 μ m の円などを設定しておくこと、評価がしやすくなると思われま。詳細な方法についてはメールで今後ご案内をさせていただきます。

実際の評価は USB に入っている Excel に入力いただきます。

上記の診断用の Excel に加えて、アンケート用の Excel も UDB に同封させていただいております。診断いただいた先生の属性、評価にかかった時間などの情報も副次的に収集します。

評価シートとアンケートのデータの提出は事務局までメールでの送付をよろしく申し上げます。USB は返却不要です。

現在実施許可を取得いただいた施設には本研究会後すぐに送らせていただきますので、4 月中を目途に提出いただけたら幸いです。

→特に質問はなし。

・登録期間の延長について

皆さまのおかげでこの1年で登録状況は大きく改善しました。

2024年の登録があまりできなかったこともありましたが、2025年の登録実績から1年延長により3000例の登録が視野に入る状況となってきました。

ご負担を考えると申し訳ないのですが、今後二度と同様の研究はできませんので、もう1年登録期間を延長して3000例の登録を目指せればと考えておりますが、如何でしょうか？

→現地ではご意見なし。

ご意見等ございましたら、メールなどでもご連絡いただけたらと思います。

特にご意見などがなければ、4月の異動などに伴う変更申請にあわせて、登録期間の延長も含めて変更申請を行う予定です。

文責：秋吉高志